

平成 26 年度 飯山市公民館の基本方針(案)

飯山市公民館長 服部秀人

はじめに

『汝、何の為に其処に在りや』——これは、伊那市で開かれた平成 25 年度長野県公民館大会・講演会で銭谷眞美（ぜにや まさみ）氏（東京国立博物館長・前文部科学省事務次官）が母校の秋田高校時代の校長・鈴木健次郎の言葉として紹介されたものです。昭和 21 年、戦後の日本を民主的に復興させようと、「国会議事堂ともいうべき機能を持った町村公民館を全国につくれ」と文部省通達を發した寺中作雄・公民教育課長の下で課長補佐として、この「寺中構想」を練った一人が、その鈴木健次郎でした。

鈴木は「文化が生活に浸透し、教育が社会と連携し、政治が国民と直結し産業が郷土に根を張るような生き活きとした美しい民主国家、平和国家」を創るために、社会教育活動に打ち込んだと言われています。

『汝、何の為に其処に在りや』の気概を持って、公民館活動に臨みます。

基本方針

公民館活動において大切なことは、地域振興を図るということではないかと、私は思います。地域振興の原点は、地域住民意識の高揚、言い換えれば、生き甲斐がある、ということであろうと思います。日々の暮らしに生き甲斐を覚えるためには、先人が培った豊かな郷土への愛着と誇りが前提になると思います。

地区館と連携した事業と市公民館としての事業、この両輪を通じて、地域振興、生き甲斐、そして郷土への愛着と誇りが生まれるように取り組みます。

基本目標

地域振興を図る要として、1) 地域で子どもを育む、2) 心温もるおもてなしと共に飯山の認知度を高め、3) 飯山の内と外の学びを通して心豊かな人生を、ということに重点を置きます。

1. 地域で子どもを育む

I T機器の使用について飯山地域の小中学生を対象に行われた調査によると、9割がこれらの機器を所有し、その半数の者が、ゲームやインターネットを通じて不特定多数と交信しているそうです。ご承知のように、これら不特定多数との交信は、誹謗中傷からいじめへと繋がり、また性犯罪に引き込まれる危険も見逃せません。一方、OECDの数学リテラシーの学力調査によると、幼少時からI T機器になじみ、1日1時間以内でそれらに触

れていた子どもは学力が高いという結果もあります。このように、IT機器は長短併せ持つもろ刃の剣です。子どもたちをその危険から守るために、周囲の大人がIT機器に対して正しい認識を共有して、地域で子どもを育むよう、学習会を開くなど、啓発活動に取り組みます。

2. 心温もるおもてなしと共に飯山の認知度を高める

いよいよ新幹線開業が目前に迫りました。おもてなしについての学習と飯山の発信に努めます。地区公民館が実施しているカカシの取り組みに加え、「1地区1発信&おもてなし」に取り組みます。

3. 飯山の内と外の学びを通して心豊かな人生を

飯山の歴史や自然、伝統文化など、地元を学び、また、講演会や各種講座などを通じて外に学ぶ、内と外の学びを通して、物質的豊かさを超越して、心豊かな暮らしを育みます。

目標達成に向けて

本年も引き続き、以下の事柄を心がけて頂くよう地区公民館にお願いします。

「自覚の醸成」

1) 地区館主事の自覚

公民館活動について自ら学び、館長を補佐し、専門部員始めスタッフのリーダーとしての自覚を持って頂きたいと思います。市の職員として、公民館主事としての責任を果たすよう心掛けて頂きたいと思います。

2) 地区館専門部員の自覚

専門部員の皆さんには、館長、主事に協力して地域振興に寄与しようとする前向きな姿勢を持って頂きたいと思います。専門部員は市の特別公務員として位置付けられております。公務員としての責任を意識して、職責に磨きをかけて頂きたいと思います。

3) 地区館長さんへお願い

地区館長さんには、主事、専門部員始め地区館スタッフの皆さんをご指導頂き、地区の事情に即した独自の活動を行うとともに、市公民館との連携事業に協力して頂ければ幸甚です。